

ヤマトオサガニはたくましいカニです。ヘドロを掘っては穴の外にかき出します。この穴に海水が入ることによってヘドロの中に海水中の酸素が供給され、底質が改善されます。下の写真は浦ノ内湾最奥部のヤマトオサガ



2004年6月18日に浦ノ内湾最奥部で撮影。



ヤマトオサガニの雄。2004年
6月7日浦戸湾深浦にて採集。

ニです。ヘドロの中心にいるカニは本種だけです。ヘドロの端になるとチゴガニが出現するパターンが高知県内の内湾では普通に認められます。

水質汚濁がより進行すると、ヤマトオサガニでさえ生息不可能になります。彼らを見かけたら、そこは海で生活する動物たちにとってぎりぎりの環境であることをぜひ思い起こしてください。浦戸湾には随所にこの環境があります。

2004年7月21日発行 発行者：町田吉彦（理学博士，高知大学理学部教授，
四国自然史科学研究センターセンター長）

本書の内容の無断複製を禁止します。複製ならびに内容についての問い合わせはFAX 088-844-8310（町田研究室直通）をお願いします。